

令和3年度の教育活動等における学校評価書

令和4年 2月 28日

学校法人 麻機幼稚園園長小酒井厚子

学校法人 麻機幼稚園学校関係者評価委員会

1. 教育目標 「健康で明るく元気な子」
2. 教育方針 自然に恵まれ、うるおいとゆとりのある環境の中で、さまざまな物や事柄に興味・関心を持ち、大勢の人とかかわり合いながら、身体を精一杯動かしたり、遊びを工夫したりして、自分の考えを持ち、自分で行動できる子を育てる。このような資質を持った次代を担う人づくりを目指す。

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果 A:よくできている B:概ねできている C:余りできていない D:できていない

評価項目	評価	自己評価の視点、理由、改善点など	評価	学校関係者評価委員会意見
0 子どもの姿	A	<p>○10の姿からの検証</p> <p>本園の子どもたちは、明るく、屈託のない子が多い。</p> <p>心身の健康、発達に応じた自立、遊びを仲間と創る協同性、言葉による伝え合いなど、年齢に応じた発達を遂げている。</p> <p>また、製作では豊かな感性をもち、自分の思いを表現できる子が多い。</p> <p>○本年度の重点目標「明るいあいさつ」について</p> <p>来客の際や集会などでは、みなと共に元気な挨拶をすることができる。</p> <p>また、教師からの挨拶に呼応できる子も多い。</p> <p>反面、自分から主体的に挨拶するまでには至っていない。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・親しみやすく和やかな雰囲気があり、子どもたちは訪れた人にも親しみをもち、活気に満ちています。「わたしたち、ぼくたちの幼稚園」という愛着をもっています。 ・園庭で遊んでいた子どもたちから「おはようございます」と、明るく元気にはきはきとした挨拶が返ってきました。挨拶がしっかりできることは実に気持ちがよい。更に推し進めてください。 ・明るく伸び伸びと活動している様子が感じられます。また、園児の作品を見ると丁寧に作ってあるもの、感性の豊かさが感じられるものなどがあり、先生方の細やかな指導が成果として表れていると思います。また、園に伺うと子どもたちが気持ちのよい挨拶をしてくれます。小学校でも中

			<p>学校でも大切にしている「挨拶」を今後も重点として取り組んでいただければと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園へ行くと子どもたちの方からよく声をかけてくれる。 ・お部屋へ行くと、元気よく挨拶してくれます。 <p>自分から挨拶してくれる子も見かけます。</p>
<p>I</p> <p>保育の計画性</p>	<p>B</p>	<p>○月案を中心にして</p> <p>本園は、月案を中心に月毎の計画を立て、保育を実施している。その月の「計画→実施→評価→翌月へ活かす」といったサイクルで、カリキュラムマネジメントの一端を担う。</p> <p>○行事に向かって</p> <p>今年度もコロナ禍のため、行事の軌道修正が昨年度以上に行われた。刻一刻と変わるコロナ禍の状況を鑑み、その都度教職員で話し合い、1、2か月後の行事や保育について試行錯誤をしてきた。</p> <p>保護者の理解も得られ、また、子どもたちも元気に登園できたことは一定の成果であると考えている。</p> <p>○新しい教育の動き</p> <p>幼稚園教育要領が目指す10の姿の検証、および今後数年後に文部科学省から提起される幼児教育の在り方などへの理解が求められる。幼児教育から高等教育まで、一貫した「主体的、対話的で深い学び」の実証、「令和の日本型教育」の実現など、今後の課題は多い。園の研修を重ね、本園で何ができるのか、本園がこれまで培ってきた教育文化や本園の強みを活かしながらの検証が必要である。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新しい教育の動き」については、よきものは積極的に取り入れ、一方でこれまで長い時間と膨大な献身とによって積み上げてきた園の伝統や歴史も大切にしてほしい。 ・麻機に生まれ育ち、70年余経ちますが、麻機の歴史、文化、自然の良さなどがあまり語られておりません。幼児教育の中で、例えば「沼の婆さん」など紙芝居を通して教えてほしいと思います。 ・コロナ禍で行事の軌道修正が避けられない状況でも、工夫して実践されている様子が感じられます。子どもたちが、主体的に活動できるように計画的に実践されていると思います。 ・コロナでいろいろなイベントがなくなってしまったのは仕方がないが、もう少し工夫してできることがあったのでは、と少し思った。 ・コロナ禍の中、その都度計画していただけて感謝しております。

<p>Ⅱ 保育の在り方 幼児への対応</p>	<p>A</p> <p>○健康と安全への配慮 本園では、保育者と非常勤が協働しながら、自由遊びの際の子どもたちの安全を見守っている。ときに、管理職が、全体を俯瞰して見回り適正な配置を要請することがある。</p> <p>また、体操の専任教師が、職務として園庭や遊戯室の遊具の管理を行い、主導するとともに、保育者が協働して安全点検を行っている。</p> <p>常時、用務員が遊具の修理を行うが、今年度は専門業者が遊具の点検修理を行う機会をもった。</p> <p>コロナ禍のため、基本的な衛生管理には常に配慮した。</p> <p>また、専門業者の全園・全バスの消毒も年間数回実施した。</p> <p>ときに、慣れから子どもたちの手洗いが疎かになることもあるためその都度丁寧な指導を重ねてきた。</p> <p>○幼児の見取りと理解を指導に活かす 日頃より、保育者が子ども理解を深め、それを日々の保育に活かしている。登園時の健康観察はもとより、保育者が子どもと共に遊んだり子どもの目線に立って子どもの内心を理解しようと努めている。子ども同士のトラブルなど、保育者が中に立ち、相互の思いを言葉に代えて伝えられるようにしている。</p> <p>○保育者同士の協力・連携 若い保育者を育てるためにも、常に協働して話し合い、行動することは重要である。本園では、非常勤も含めて協働体制ができている。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の厳しい状況下に置かれながらも、各方面にわたり十分に丁寧な配慮がなされていると感じます。 ・人が困っているときに声を掛けて相談にのったり助けてあげられる心の優しさを持った子どもに成長してほしいと期待します。 ・園児の健康と安全は何よりも大切なことだと考えます。教職員の協働、実態に応じた適切な対応が評価できます。 ・コロナで先生と話す機会がなく、子どもたちの園での様子が分かりにくかった。 ・衛生管理に気を付けていただけた。本当に子どもたちのことを見てくれていて、小さなことでも、会おうと伝えてもらえるので安心です。
<p>Ⅲ 保育者としての 資質や 能力・良識・</p>	<p>A</p> <p>○専門性を磨く 本園の教師の年齢層は、30代、40代のベテラン層と20代前半の若手層に分かれる。この間を繋ぐ層が薄いですが、若手の気持ちを理解し若手中心の育成研修が行われている。</p> <p>これにより、若手の資質も徐々に育てられている。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方それぞれのキャリアに応じて、よりよい指導、よりよい保育を目指して日々熱心に努力を重ねていると感じます。 ・速いテンポで時代は進み、動いております。コロナ禍という難しい局面のかじ取りの中で、時代の変

<p>適正</p>	<p>○保育者としてのやりがい 保育者が常に子どもに寄り添い、子どもとの時間を楽しんだり、子どもが望む遊びを工夫して環境を創ったりと、充実した時間をもつ。そのため、子どもの成長が見られたときには、保育者としてのやりがいを感じる。</p> <p>○就業規則の厳守 常に、報告・連絡・相談に努め、重要な案件については、保育者全員で共有し、解決に努める。</p> <p>また、大切な個人情報については、守秘義務を遵守し、社会の信頼を得るように努めている。</p>	<p>化に乗り遅れないよう、職員の皆様には研修に磨きをかけてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性を磨くために、ベテランと若手がチームとなり日常的に報告、連絡、相談をしてよりよい実践につなげる取組み、子どもの成長につながっていて素晴らしいと思います。 ・子どものことを質問すると、しっかりと答えてくれて安心することがあった。 ・子どもたちで考えた遊びなどを取り入れてもらえたりして、考える力がつくようになったと思います。
<p>IV 保護者への対応</p>	<p>A</p> <p>○保護者との信頼関係 常に、保護者との連絡を取り、相互の思いを理解し合うようにしている。そのため、和やかな雰囲気由来園する保護者が多い。</p> <p>また、コロナ禍の対応では、国のレベルが変わる際には保護者向けに手紙やメールで連絡し、本園の行事への対応や保育の考え方を伝えてきた。中には、不安をもつ保護者もいたが、最終的には理解を得られたのではないかと考える。</p> <p>子どもが病気や怪我で休んだ時には、必ず家庭へ一報を入れ、子どもの病状や怪我の様子を伝えるよう努めた。</p> <p>登園時には、保護者と対面する時間を大切にし、笑顔と挨拶で対応することを心掛けている。</p> <p>○園や学級での様子を伝える コロナ禍でもあり、行事への参観が制限され、学級での保育参観もできなかった。保護者にとっては満足が行かなかったのではないかと。そのため、運動会では動画配信をした。また、HPや「あさのみ(学年だより)」により、子どもや学級の様子を随時伝えてきた。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の視点に立って、不安を解消し、信頼される取組みをされています。園と家庭との間のコミュニケーションを大切にしていることが分かります。 一方で、多くの保護者と異なる意見や要望、見解をもっているごく少数の保護者へは個々の対応が求められ、共通理解に苦労している面も見られます。 ・少子化を迎えた今日、保護者との連携は教育の実を上げるために、さらに密にしなければならないと思います。家庭環境が違い、能力差等個人差のあることを考えると、画一的な教育も難しく、積年の課題でありましょう。 ・保護者と対面する時間を大切に、忙しい中でも丁寧な対応をして連携を図っている点が評価できます。運動会の動画配信やHP、学年だよりなどで園の様子を伝える取組みが、保護者の理解と協力につながっていることが分かりました。

		<p>このような取組みについて、保護者から評価する声が聞かれたことは大変嬉しいことであった。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・Webでの発信。 ・本年度は保護者が園に入れない時期が多く、行事も中止になり、園での様子を見ることができなかった。先生と会う機会も少なかったので、子どもの様子を聞くことも難しく、心配している保護者もいました。
<p>V</p> <p>地域の自然や社会とのかかわり</p>	<p>B</p>	<p>○地域の自然を活かす</p> <p>コロナ禍や天候悪化のため、予定していた園外保育が中止になったこともあった。しかし、コロナが収束した時期や天候に恵まれたときには、近隣のあさはた緑地やおぞら広場で、子どもたちは存分に体を動かし、季節を感じた。</p> <p>また、初夏のジャガイモ掘り、秋のサツマイモ掘りやみかん狩りなど、子どもたちが季節を感じる収穫活動の機会を得た。皆地域の方々のお陰である。</p> <p>近くに、田園風景が広がり、豊かな自然があることは、本園の強みであり、今後、未就園児の集い「あさはたキッズ広場」でも、田園風景の中で活動の幅を広げていきたい。</p> <p>○自然物を使った遊びや製作</p> <p>今後は自然への関心をより深めるためにも、自然物を使った遊びを展開したり、製作に活かしたりと、「10の姿」である「生命尊重や豊かな感性と表現」につなげていくことが大切であると考えます。</p> <p>○地域の人々との交流</p> <p>今年度もコロナ禍のため、実現できなかった。</p> <p>一日も早いコロナ禍の収束を願い、その折には地域の方々との交流を深め、園児の良さを理解していただく一方で、子どもたちには、地域の様々な年齢層の方々と触れ合う喜びを実感させたい。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の下、地域との交流は積極的に進めにくいところがあります。地域の望みと園の関係形成のイメージとのすり合わせや意見交換など、日頃からの対話が欠かせないと感じます。 ・以前学区の敬老祝賀会の際、園児に楽器演奏を披露していただきました。そのとき、訪れていた敬老対象者の目の輝きを今だに忘れられません。中には我が孫のように涙ぐんでいた方もいて、手拍子をしていました。元気なパワーをいただいていた。 ・「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を目指して、恵まれた自然環境を生かして、子どもたちに豊かな体験をさせている点が良いと思います。 ・園外へ行くことが多い。 ・できる範囲で園外保育へ出かけてもらっていたようで、よかったです。

<p>VI 研修と研究</p>	<p>B</p> <p>○若手育成 本園の年齢層は「Ⅲ ○専門性を磨く」で前述したとおりであるが主として「製作」の場を研修の機会としている。 その折には、「10の姿」の中の「豊かな感性と表現」・「言葉による伝え合い」などが検証できる。 子どもたちへのねらいや願いも上記の項目が大方である。 一方、「自立心」や「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「思考力の芽生え」などは、学級や学年の保育から捉えている。今後は、このような姿をねらいとした研修も必要であり、研修の幅を広げることと考えていきたい。(子ども理解と支援の方法・自然遊びや廃材を取り入れた環境・リズム遊び・鍵盤ハモニカ指導の在り方・保護者支援の在り方・他園参観など)</p> <p>○日常の保育環境 晴れの日には、子どもたちは砂場で見立て遊びや、砂や土の感触を楽しむ。山や川をダイナミックに作るなど、思考力や協同性を耕している。また、園庭では、気の合う友だちを誘い、しっぽ取りやブランコ、乗り物などを楽しみ、遊びが続いている。 一方、雨の日の保育室の環境については、一考を要する。遊びこむ手作りの環境も考えていきたい。また、「月1回は存分に遊びこむ時間を保証する」などの意見もある。 子どもが主体的になって遊んだり、想像力をはぐくんだりできる環境づくりについて充実していきたい。</p> <p>○本園の目指す子ども像の明確化 カリキュラムマネジメントを通して、卒園までに「どんな子どもを育てるのか」明確にしたい。それにより、学年毎に目指す子ども像も明確になる。全園の保育者が、子どもたちへの願いを共有することが大切と考える。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成と人材確保については、ワークライフバランス、ストレスのない職場環境という観点からも今後の取組みを検討してみるのもよいかと思います。 ・麻機幼稚園の周囲には支援学校などの各種学校をはじめ、福祉施設、開園した麻機緑地等恵まれた自然環境があり、交流が期待されます。教育の中にもっともっと生かすことができれば大変意義深いと思います。 ・これまで以上に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識して研修に取り組んでいच्छることがうかがわれます。教員が一つになり、同じ方向を向いて取り組んでいると思うので、今後の実践にも期待しています。
---------------------	---	--

		<p>就学する子どもたちのためにも、小学校との連携を密にしていきたい。現在、文部科学省では、「幼保小かけはしプログラム」の作成が進行中である。これまでも、幼児教育から小学校教育への滑らかな移行を目指し、地域毎の取組みはあったが、今後は更に「対話的、主体的で深い学び」をキーワードに、幼児教育から高等教育までの一貫した教育の在り方への方向性が示される。それが、文部科学省が提唱する「令和の日本型教育」につながっていく。</p> <p>今後の動向を見守り、本園では何ができるか、考えていきたい。</p>		
--	--	---	--	--

4. 今後取り組むべき課題

- (1) 「令和の日本教育」について文部科学省の意向を理解し、本園の培ってきた文化や強みを活かしつつ、保育環境の在り方を徐々に見直していく。
- (2) 年長児の保育については、改めて「幼保小かけはしプログラム」を理解し、全園で教育に当たる。それが就学を意識した育ちにつながる。
- (3) 今後求められる小学校との連携、協力の在り方を模索する。
- (4) あさはた緑地や地域にある公園などへの園外保育を行い、地域の良さである自然を保育に活かす。また、コロナ収束後は、地域の方々との連携をより一層図る。
- (5) 若手育成とともに、中堅層の専門的なスキルの習得を図り、園全体の資質の向上を図る。
- (6) 常に保護者との連携を図り、相談体制を充実させ、ときには専門機関につなげてよりよい子どもの育成を図る。